

風力発電 いわきに協議会

部品メーカー10社が月内

【いわき】福島県いわき市に本社・工場を構える企業10社などは「いわきウインドバレー推進協議会」を29日に発足する。風力発電の部品製造やメンテナンス体制の整備に加え、地域が一体となった風力発電産業の製造拠点化を推進する。同地域の金属加工業の基盤技術を結集するほか、人材の育成にも取り組み、福島県浜通り地域での風力産業クラスター実現を目指す。

一大製造拠点化目指す

代表には風車タワーを製造する会川鉄工の会川文雄社長が就任す

る。参加企業は会川鉄工のほか、東北ネチ製造、江名製作所、いわきエフアールビー工業、鈴木電機吾一商会、バックス情報システム、いわき精機、岩電機工事、常磐エンジニアリング、富士ピー

・エス。事務局は、いわき産学官ネットワーク協会が務める。参加企業は風力発電の部品製造に乗り出し、事業参入する計画。協議会は人材育成、メンテナンス、技術の3分科会を設け、課題の抽出とその対応策を進める。企業が連携して技術の向上を進

め、部品の製造や今後ニーズが増えるメンテナンスでの一括受注体制を整えていく。いわき地域で製造拠点を充実させ、国内での販路開拓も進める。

同協議会メンバーのいわき市は、風力の拠点造りに向け東京大学先端科学技術研究センターと連携、メンテナ

ンス事業の技術指導を受ける一方、地元高専の学生が東大に出向いて実学を学ぶ人材育成事業も8月から始める。第2ステージでは協議会参加企業などからも人材を派遣する。

福島県では現在、浜通りエリアで計38万㎡の陸上風力の計画があり、計300基の風車が建ち、いわき市にはその半分ほどが立地予定。こうした状況を踏まえ、いわき地域の産業が集結してウインドバレー協議会を発足させることにした。

タートと連携、メンテナ

ンス事業の技術指導を受ける一方、地元高専の学生が東大に出向いて実学を学ぶ人材育成事業も8月から始める。第2ステージでは協議会参加企業などからも人材を派遣する。

福島県では現在、浜通りエリアで計38万㎡の陸上風力の計画があり、計300基の風車が建ち、いわき市にはその半分ほどが立地予定。こうした状況を踏まえ、いわき地域の産業が集結してウインドバレー協議会を発足させることにした。

タートと連携、メンテナ

ンス事業の技術指導を受ける一方、地元高専の学生が東大に出向いて実学を学ぶ人材育成事業も8月から始める。第2ステージでは協議会参加企業などからも人材を派遣する。